

2025年度 学校教育自己診断 分析

1. 生徒

- ・肯定的評価が大きく低下している項目はなかった。概ね、本校の教育活動が肯定的に受け止められていると考えられる。
- ・授業に関する項目（3わかりやすく楽しい、4自分の考えをまとめ発表する、5実験・実習・校外学習の充実、6一人一台活用）や、評価に関する項目（7取り組む姿勢を評価、8評価に納得できる）で、肯定的評価が向上している。新カリキュラムと観点別評価の実施、LGH（GIGA構想）開始から3年が経過し、本校での、授業の改善、評価の適正化などの研修、取り組みの成果が表れている。
- ・生徒指導に関する項目（9指導に納得できる、10生活規律の確立、11いじめ対応、12相談体制）で、肯定的評価が向上している。カウンセリングマインドをもって生徒指導をしている成果が表れていると思われる。
- ・数値は80%を切っているが、23清掃も3年間で向上しており、取り組みの成果が表れていると思われる。
- ・25地域との交流、26地域に役立っているの項目も、コロナ禍が明け、向上しつつある。さらに、80%を越えるよう取り組む必要がある。

2. 保護者

- ・回答率が6割となっている。ライデンメールで配信し、フォームで回答していただくようになり、4年が経つ。様々な場面で、学校と保護者の連絡手段としてオンラインが浸透したことも要因と考える。
- ・生徒と同様に、肯定的評価が大きく低下している項目はなかった。概ね、本校の教育活動が肯定的に受け止められていると考えられる。
- ・特に、2意思疎通、3相談に応じてくれる、4教育相談体制などの肯定的評価が年々向上している。担任の教員をはじめ、本校教職員が保護者とのコミュニケーションに努めている成果と思われる。
- ・7いじめ対応が保護者72%に対して、生徒が93%、11授業がわかりやすいが保護者62%に対して、生徒が86%であった。生徒の肯定的評価より保護者の肯定的評価が低い傾向がある。13情報提供76%も鑑み、懇談や説明会等を通じて、より一層、本校の教育活動について理解していただき、家庭でも保護者から生徒への働きかけ（話しかけ）をしてもらえるようにする必要がある。
- ・一方、22保護者の学校行事参加は、2年前と比べると、増加している。コロナ禍が明け、保護者の方も積極的に学校に来ていただけていると思われる。

3. 教職員

- ・1話し合い、2評価・計画、3教科を超えての議論、4指導方法の検討、5評価の検討などの項目は向上している。新カリキュラムと観点別評価の実施、LGH（GIGA構想）開始から3年が経過し、一回りし、授業や評価について、教科や分掌等で積極的に振り返りや見直しが行われているものと思われる。
- ・22校務分掌、23校内連携、24意思疎通、25職場の人間関係の項目が向上している。特に、25職場の人間関係で1よくあてはまるを回答した職員が42%を越えている。職員室をはじめ、校内で教職員の意思疎通、連携が活発に行われている成果と思われる。
- ・31初任者研修、35PTA活動、27清掃等については、業務が忙しい中でも、若手教員育成、PTAとの連携、校内清掃等に、前向きに取り組む教員が多くなっているものとする。

- ・ 13 学校行事の改善は低下したものの、12 ホームルーム活動、14 生徒会活動、15 部活動については向上している。今後も、生徒の自主的な活動のサポートを総合的にすすめる必要があると思われる。
- ・ 16 情報リテラシーが微増、17 命の大切さと社会のルールが微減、18 人権尊重が増加している。総合的な探究の時間をはじめ、授業以外の教育活動で、生徒に考えさせたり、取り組ませたりする課題を、総合的に検討し、教育活動を行なう必要があると考える。